

アマチュア演劇 あきた

16. 5. 20 No. 22.23

編集・発行
秋田県演劇団体連盟
印刷
(株)ウエーブ

連盟創立

三十五周年にあたり



理事長 坂本好逸

当連盟の副理事長、富橋信孝氏（シ
アター・ル・フォコンブル代表）が昨
年五月に上演した「蜻蛉」の演出とし
て、第二十九回秋田県芸術選奨の榮譽
に輝きました。氏は、昭和五十年・青
山杉作記念俳優養成所に始まり、プロ
として活躍、昭和五十九年に帰省、シ
アター・ル・フォコンブルを結成、当
連盟の事務局長として平成三年から十
年間お勤めいただきながら、上演活動
では多くの観客を楽しませてくれまし
た。富橋氏の細部に互る演出の気遣い
には、同じく舞台を創る仲間として学
ぶところがありました。この度の受賞
はむしろ遅いと言わざるを得ません。
やっと、秋田県が我々の演劇活動に眼
を向け始めてくれた様に感じます。
今年、連盟創立三十五周年にあたり
ます。記念事業として「記念誌」の
発行と、創造団体が結集した連盟とし
て主催し、東北地区、中央地区、県南
地区の三地区で加盟団体等が合同公演
を企画しています。それこそ、県民の
皆様に「我々の演劇活動」をアピール
する絶好の機会と存じます。各位の奮
闘を期待いたします。

演劇セミナー、それぞれの趣向で盛会に終える。

第二十九回秋田県演劇セミナー（平成十四年度）

平成十四年十月五日、六日

会場 ニツ井町 きみまち坂ヘルスセンター

一昨年の平成十四年度は、受け入れブロックが県北担当であり、初めて二
ツ井町の展覧場が中心となって演劇セミナーを開催した。

劇団風の子に公演を依頼し、一人芝居「森から来た魚」を上演。白山山
を背景とした会場地、きみまち坂ヘルスセンターに特設舞台をつくり、一般
客を交えながらの舞台は森と川、そして海との自然界の中で人間のエゴがど
う関わってきたかを随所にうなづかせる舞台であった。その後、劇団歴年数
ごとに分科会をつくり、それぞれの所で自分と劇団というようなテーマで大
いに語ってもらった。その成果の程は分からぬが、少しはマンネリ化してあ
ったセミナーに若手が多く参加してくれ、会を盛り上げてくれていたのは嬉
しかった。

第三十回秋田県演劇セミナー（平成十五年度）

平成十六年一月二十四日、二十五日

会場 秋田市 ワシントンホテル・他

第三十回演劇セミナーは中央ブロック担当で会場がワシントンホテル。富
橋代表シアター・ル・フォコンブルがモデル上演を受け入れ「楽屋」を観劇
した。さすがテント芝居でも育った富橋氏の舞台でホテルの空きスペースを
見事に舞台（楽屋？）にし、演技の質の高さも併せ観客を感心させた舞台で
あった。普段この手の芝居は見ることがない連盟の人たちも多くいて（筆者
もその一人）自分のところでやっても客が理解できるだろうか？という声と
同時にさすが秋田の中心都市に位置するル・フォコンブル健在なりというし
ゃれた舞台でもあった。

もつと多くの劇団員が参加して賑わいのセミナーに出来ないものだろうか。
例えば翌日行う総会などというものは別日程にして遊び心を取り入れた一泊
二日のセミナーにしてもいいのではないだろうかと思う。せつかく遠くの地
に出かけるんだったらそこには演劇だけじゃなく、その土地の風とか、湯つ
ことか、人に触れたいと願うのは私だけだろうか。県南の劇団員が北の劇団
のあいつに一年ぶりに会いたくて来る、そんなセミナーを実現できたらと思
うが……

（事務局長 工藤慶悦）

第29回(平成15年度)

秋田県芸術選奨受賞

富橋 信孝

演劇 「蜻蛉」の演出

お 礼

平成15年度秋田県芸術選奨を頂いて

シアター・ル・フォコンブル代表 富橋 信孝

1984年春、仲間3人で劇団を創つてから、今年で20年になります。節目の年にこの芸術選奨をいただけること、素直にうれしく思っています。アマチュアの劇団のしかも、演出“という、生の舞台です。評価の難しい分野に光をあててくださった選考委員の皆さんの“勇氣”に心から敬意を表します。また、私を推薦し続けてくださった、秋田県演劇団体連盟の皆さんには、本当にありがたく思っております。

芝居は一人ではできません。この賞は『蜻蛉』に関わった劇団員・キャスト・スタッフ全員でいただいた賞だと思っております。そして、この一作だけでなく20年芝居をやり続けた事への「褒美と、「こ

れからもがんばれ」という叱咤激励と感謝しております。

この20年間、ル・フォコンブルの公演に関わったすべてのキャスト・スタッフのみんなに感謝します。公演の度にいろんな面で協力してくれた会社の仲間にも感謝します。中学校の演劇部からずっと芝居をやらせてくれた両親に感謝します。稽古で遅くなつて、一緒に夕飯も食べられないのに「おとうさん、おとうさん」と言ってくれる子供達に感謝します。そして、そんな子供達と一緒に待っていてくれる、高校の演劇部の頃からル・フォコンの富橋演出のファンだった妻に感謝します。ありがとうございました。

秋田県演劇団体連盟・加盟団体名簿

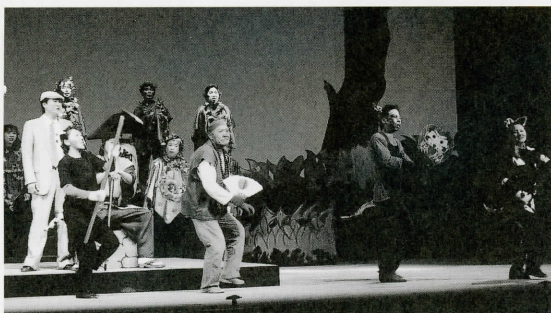
演劇グループ十一人の会	伊藤 三喜	能代市宇町後69	〒016-0132	0185-58-4619
演劇集団すかんばん	小野 健爾	秋田市東通明田3-28	〒010-0005	018-834-0563
演劇を楽しむ会	武藤 廣子	鹿角市花輪字上花輪46	〒018-5201	0186-23-6545
大館市民劇場	瀬尾 啓示	大館市釈迦内字台野道上58-34	〒017-0012	0186-48-3630
男鹿演劇研究会ふきのとう	鈴木 美子	南秋田郡天王町天王字北野234-25	〒010-0201	018-878-4980
劇団「瀟」	渡辺 春雄	由利郡西目町出戸字土花6-1	〒018-0602	0184-33-3051
劇団能代小劇場	伊藤 洋文	能代市西通町16-5	〒016-0891	0185-52-6739
シアター・ル・フォコンブル	富橋 信孝	秋田市仁井田路見町3-17	〒010-1434	018-839-5716
新企画舎	嶋田 修	横手市前郷二番町2-23	〒013-0037	0182-32-6272
たかのす劇団	三澤 守一	事務局/北秋田郡鷹巣町材木町(成田豊人)	〒018-3301	0186-62-9271
展楽座	工藤 慶悦	山本郡二ツ井町海道上70	〒018-3115	0185-73-5602
横手アマチュア演劇研究所	坂本 好逸	横手市明永町11-58	〒013-0004	0182-32-1110
横手演劇研究会	宮川 昇	横手市朝日が丘3-20-15	〒013-0055	0182-33-4993

各劇回の活動報告

大館市民劇場

平成十四年(二〇〇二)は、三度目となる小坂町康楽館公演から始まりました。三度目とはいっても、康楽館の常設公演があり、三時半過ぎでなければ仕込みに入れない状態で、慣れてきたとはいえ時間との戦いでした。仕方ないという気持ちと、もつとこういつた作品がしたいというギャップの中での公演でしたが、「康楽館で芝居が出来る」という、演劇人として至福の時間を得ることができるといふことには替えられません。

平成十五年(二〇〇三)は、前年からの「大館市先人顕彰祭(安



藤昌益生誕三百年、小林多喜二生誕百年をメインに)での公演を」との要請に応えて、子役の公募(十四名)、合唱団の参加、そしてテーマ曲の作曲、メインポスター作成ほか市民参加を募り、大館市民劇場としては、初めての歌と踊りを取り入れている公演でした。

ここ数年の公演は、役者の高齢化及びスタッフ不足、練習場不足と常に問題を抱えながらの状態ですが、何とか楽しくやっております。

横手アマチュア演劇研究所

素朴な舞台に感動・・・

一昨年に面白い体験をした。横手市内の北に朝倉地区と言う所がある。この地区は開拓によって開かれた地域であるが、その偉業を成し遂げて古人の威徳と業績をたたえて「朝倉物語」と題して制作、上演した。驚いたことに、その業績を称える歌まであった。なんと作詞は土井晩翠であった。

取組みに当って、「伝える」をテーマに主だった役は地区の小学生に演じてもらった。村人、その他は、父兄や地区の大人でかためた。ほとんどが未経験者である。脚本、演出、演技指導は我々が担当した。やがて地区の人たちがあつまりだした。背景を描く人、大道具をつくる大工さん、衣裳を造るおかあ

さん、幕間のブリッジに、称える歌を使おうとしたら、ママさんコーラス隊(?)の方々まで参加してくださった。公演当日は物語が進むにつれ、囚らずも観客の中からコーラス隊と一緒に唄う声が聞こえて来た。昔、地区の小学校では、その偉業をたたえる行事があったようだ。だから唄えたのだ。正に理想の空間になった。素朴な舞台ではあったが久々に感動した。

演劇を楽しむ会

手づくりの芝居小屋(公民館ホール)で旗揚げ以来、足かけ十四年。継続は力。というけれど、毎年同じ時期(二月第四週土曜の夜)に打ち続けた結果、数年前から立見が増え、昨年から金・土二晩公演に踏み切った。客の利便を考え、両日共通券としたが、神仏の計いか、祈願の甲斐あって両日共約四〇〇名ずつ、計八〇〇人ほどの入りであった。

「北の演劇祭」の第一回公演が三月二十七・二十八日に開かれた。定演の「サクラサク」を上演。康楽館での初舞台となったが、小屋の所為か稽古量の為か、三回の内では一番良かった。加えて、一昨年と昨年の夏に、「戦争と暮らし」をテーマに朗読劇風の小公演を実施。これが新人会員の本公演での力にもなった。



昨夜、例会場に出向いたら、一般会員三名と高校生三人だけであった。つい先日、小・中・高・会員の総勢十七名が舞台に立った、あの賑いは何処へ……。毎年のことだが、まだ死んじやつてるのだろうか？

新企画舎

スタッフワーク全面新展開

このところ、地域の演劇活動とのコラボレーションが新しい展開を見せはじめている。

昨年は地元で若手の新劇団が旗揚げした。



劇団ながら演劇だけはいまひとつ不得手という連中であるが、制作サイドが小憎らしいほど達者で、人・モノ・カネの調達には十年選手の貫禄すらある。何を言っても「それって何ですか」と屈託がなく、若書きながら脚本も自分で調達してくるとなれば、近い将来スタッフの座が脅かされる恐れもある。「センパイ、脚本見といってくれませんか」
「悪いけど、もつと書きこまなきやな」
「はい。背中いっぱい描かせてもらいます」
「背中つてオレの。描くつてまさか……」

「お奉行様の役だとヤッパ桜吹雪ですかね」
新企画舎にとって不測の新展開であった。

脚本とスタッフで関わっているのが、今年十一年目を迎えて波に乗っている世界初の町内会劇団「新町あやめ座」だ。

一昨年は、夏の公演に続き秋田県公民館大会での構成舞台、隣村の劇団からの招待公演に町での凱旋公演と、一年中公演に付き合っていた。十周年を迎えた去年の記念公演では、感慨もひとしおだった。

「十年ひと昔か。みんなよくやったよな」

「来年からは自分たちでやってみたいって」

「ちょっとさびしいけど、助っ人真利だな」

「照明と音響は来年も来てほしいそうです」

「来なくていいのはサッカーのオレだけ？」

「……たぶん」

新展開はいいことばかりとは限らない。

横手演劇研究会

団体としての活動は、ここ何年間始ど無いに等しく、今年こそは何か公演しなければと意気込みだけは強く、集まることに数多く本番当日を迎え、何度となく打ち上げのほろ苦い酒を飲み明かした事

か。

しかし、何も活動しなかった訳では無く会員個人々々として、岩手県ぶどう座制作の川村光夫作「めくらぶんど」、会員が代表を務める劇団の定期公演、平鹿町在住の劇団あやめ座での各演、また、横手市市民参加型自主事業「舞台芸術ワークショップ」などにも参加している。芝居以外でも、ラジオドラマの収録、テレビCMの出演と多方面に活動範囲を広げている。

地味だが、常に活動し続ける事に意義が有るはずで、実際新しく横手に劇団が出来た事は、少なからず地元劇団の存在が影響を与えたと確信している、間違いない。

劇団 瀧

昨年の菜の花の頃、タバコの喫い過ぎ(?)で胃の痛みに耐えながら書き上げた脚本。練習が始まると、集まりの悪いキャストに、また胃を痛め、演技を見ては、頭を痛めて脚本を直し、幕が開く直前は、どうにでもなれと思う気持ちで上演した芝居でしたが、カーテンコールの緞帳が降り、お客様をロビーでお見送りした際に観客の皆様から頂いた感激の言葉と、打上げのアルコールの勢いで「来年も公演しましょう」と叫んでしまつて……。

あれから八カ月、また毎日胃やら頭を痛めつつ、脚本の仕上げに取り組んでいます。地元「西目」にこだわった芝居を続けたい、と

の思いが劇団のメンバーと故福田豊土先生の遺志を繋ぎ止め、未熟な演技にも拍手をして下さる観客の方々と「心を共有する」時間を得ることができました。七月の公演をめざして、自分との戦いが幕を開けようとしています。

たかのす劇団

まだまだ、しぶとく

一九九二年の旗上げ公演以来昨年まで連続十二年間代表三澤守一の脚本・演出で活動して来た。定期公演以外に四回公演を行っているが、その内二回は上小阿仁村での出張公演であった。一回の公演で二本の作品を上演したこともあつた。どちらも三澤の創作だった。

みんなで大鼓の演奏をしたり、ソーラン節や花笠音頭で踊ったこともあつた。今思えば「元気があつたんだな」と遠い昔のようにさえ感じられる。

今一番の問題は劇団員の減少。しかも、女性団員が極端に少ないことだ。したがって、団員のほとんどがキャストということになる。平均年齢も高い。これはこの地域を反映しているのだろうか。しかし、これらの問題はあつても、三澤代表は劇団の事情に合った脚本を今年も書いてくれると信じている。みんな本当に素人集団なのだが、十年以上も続けていると妙にしぶとさが身について来た。これがあるので芝居はそう簡単にやめられない。

展覧会

一昨年はセミナーの開催地という言い訳で自前の公演を休んだ分、昨年は劇団員から充電完了いつでも放電(公演)出来るよという声多く、座長としてはえらくプレッシャーのかかった年であった。公演した「親父と嫁さん」の作品は作られたのが十八年前の台本で「ふるさときやばん」の創設時のころのものだ。最近の作品と違い、やはり新鮮な農村風景を感じさせた脚本であつたと思う。到底、ミュージカル仕立てに出来る我が劇団ではないし、大分作品には手を入れさせてもらったが、後にそのほうが成功に結び付けられたかなど



自負した部分でもある。目一杯の役者を登場させ、足りない所は勝手に劇団員が友人を拉致して来る。そんな稽古が続いた。公演の二ヶ月前、もしかして二回公演では会場に入りきれないかも知れんと通し稽古を見て直感し、初の三回公演をポスターに打った。やり遂げた時は感動した。まさにやれば出来るの一言であった。舞台の評価も手前味噌かも知れぬが良かった。毎回やるアンケートの回収率も三回公演とも三十二%を超える回収率だった。一、〇三〇人の観客が喜んで、泣いて、笑ってくれた。役者真利とはこのことだろう。

最近の 県南の活動状況

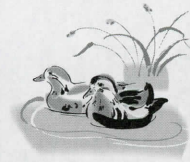
県南地区の劇団は、横手に集中している。秋田県内最古の歴史をもつ、横手演劇研究会（代表 佐藤竹利氏）。次に横手アマチュア演劇研究所（主宰 坂本好逸）。新企画舎（代表 嶋田 修）。昨年、旗揚げ公演をした劇団HOZZY&NANCY（团长 平田孝太）。平鹿町のあやめ座（座長 後藤 薫）。山内村の劇団かんじき（代表 土谷久男）。雄勝町のL, Sふあくとりい。等がある。

看板はズラリと連なっているが、活動はプロデュース公演がほとんどである。劇団はセクト集団に成りやすいが、県南ではそれが無い。各団体で拘る作品があればお互いに協力できる。良い意味で和やかではあるものの、各団体の繋ぎ合いが県南地区の活性化に繋がるのではなからうかと思うこともある。

地域の若者達に呼びかけ、活動する「あやめ座」「劇団かんじき」は定期的な時季に公演活動をしている。また、若手劇団HOZZY&NANCYの旗揚げには、県南の仲間達が協力している。更に、新たな公演と研修の場として、横手市民会館でワークショップが開催されている。若手劇団HOZZY&NANCYは、市民創作ミュージカルに参加し、ワークショップ等で出会った仲間達で旗揚げした。

この劇団仲間の繋がりの中で刺激し合い、新鮮な舞台を創り続けます。

（文責 坂本）



最近の 県北の活動状況

近年、北の演劇活動は活発である。能代小劇場はいまや能代ミュージカルを抜きにしては語れないほど重要な位置を示しており、能代をテーマに毎回の創作で頑張っている。その他、自前の公演もやっているのだが、案内が常に遅く、もう少し早めの宣伝が欲しいところである。

鷹巣劇団、大館市民劇場、演劇を楽しむ会も、毎年定期公演と名打って行っている。それぞれ独特の手法で演技がকাশし出されている。鷹巣、大館、花輪と、この三劇団は座付き作家がいてうらやましい限りでもある。また、客の入りも上々で正に地元の劇団ならではのといった笑いを取っている。ただ最近の舞台を見て感じるのもう少し稽古期間を長めに取った

ほうがいいのではないか、という疑問を投げたくなるような芝居になつてるときがある。舞台上に重さを感じられない、動きのない芝居が多すぎる。もう少し稽古をすればクリア出来るところじゃないかなど。せつかく座付き作家がいて、オリジナル脚本を提供するのだから丁寧な創りが欲しい。そんな話を当事者の劇団の方に問いかけたら、稽古期間を不足させてるのは、「作品の仕上がりが遅いからなんですよ」というほやきが逆に返ってきた。どちらかというと座付き作家の場合、演出もやってしまうからこういうことが往々にしてあるんだらうなど、納得。でも役者さんは不安ですよね…。

（文責 工藤）



事務局だより

大館市民劇場

●平成14年10月26日 (康楽館)
 ●平成14年10月27日 (実立中学校 芸術教室)
 ●平成14年11月2日 (大館市民文化会館)

第17回公演

「寒鵬」作／眞船 豊
 演出／小林重信
 「お薦・主税は大問題 (ふけいず)」
 作・演出／保坂 豊

●平成15年10月11日 (大館市民文化会館)
 大館市先人顕彰祭公演 (第18回公演)
 「ハチとつづのうの人々」
 作・演出／保坂 豊

横手アマチュア演劇研究所

●平成14年10月26日 (あさくら館)
 「朝倉地区地域づくり集会」において
 演劇「朝倉物語」
 作・演出として参画

●平成15年7月17日 (秋田テルサ)
 「過重労働防止アピール集会」において
 寸劇「過ぎたるは及ばざるが如しよ、お父さん」
 に演出・出演で参画

●平成15年12月6日 (かまくら館)
 劇団HOZZY&NANCY旗揚げ公演
 ほじねえ奴等ぞ桜咲く／秋田暮末奇人
 譚に協賛 出演

能代小劇場

●平成15年8月28日、29日
 第19回地域づくり団体全国研修交流会

秋田大会白神八竜分科会にて実行委員会
 参加

「創作ミュージカルが地域を元気にする」
 全国12都道府県より20団体70名参加で開
 催

●平成15年10月6日

依頼出演 藤里町「命を考える会」
 寸劇「生きていくのはいいことだ」
 作／演出／出演 今立善子 命を考
 える会の皆さん

●平成15年11月2日

能代ミュージカルキッズ10周年記念出演
 第26回秋田県種苗交換会協賛
 石川理紀之助物語「ひびけ板木」
 作・演出／今立善子
 スタッフで参加

●平成15年11月20日

依頼出演 能代市寿大学舞台観賞会
 朗読と鼓を楽しむ会
 朗読／今立善子
 鼓／喜多流 雨滴会

●平成16年2月19日

第23回能代ミュージカル
 「東雲開拓物語」
 作・演出／伊藤洋文
 スタッフ、キャストで参加

●平成16年3月20日

依頼出演 強坂長寿
 彼岸会公演 寸劇と講演
 善婆のいる風景「明るく生きること」
 作／今立善子

演劇を楽しむ会

●平成14年8月17日 (花輪公民館ホール)
 「第1回戦争と暮らし」朗読会

●平成14年2月21・22日

(花輪公民館ホール)
 第12回定期公演

●平成15年8月17日 (ミットプラザ)
 小公演
 「第2回戦争と暮らし」朗読会

●平成15年2月27・28日

(花輪公民館ホール)
 第13回定期公演
 「サクラサク」
 作・演出／高木豊平

●平成15年3月28日 (小坂町・康楽館)

「第1回北の演劇祭」参加公演
 「サクラサク」
 作・演出／高木豊平
 (他に県内高校2校、北上市・北芸の
 会参加。3月27日、28日)

新企画舎

●平成15年2月23日

新町あやめ座特別興行「踊る新町 人
 情おしとり恋唄」
 作／高橋 純 舞台美術／嶋田 修
 新町「あやめ座」が平鹿町生涯学習町
 民の集いで上演した作品に、地域の題
 材に取材したオリジナル脚本を書き下
 ろし、舞台美術と音響操作で参加した。

●平成15年3月9日

むつみミュージカル「とりのうみのふ
 しぎなたね」
 作／高橋 純 舞台美術／嶋田 修
 新企画舎のプロジェクトにより、保育
 園の園児と職員、保護者全員が参加し
 ての手作りミュージカルを企画。吉祥

姫が主題曲を提供して秋田ふるさと村
 ドーム劇場で上演
 場面設定からセリフづくりまですべて
 参加者が行う方法で実施。

●平成15年8月2日

新町あやめ座結成十周年記念特別大興行
 「花相撲新町準場所 恋の四十八手」
 作／高橋 純 舞台美術／嶋田 修
 新町「あやめ座」結成十周年記念特別
 公演として、地域の題材に取材したオ
 リジナル脚本を書き下ろし、舞台美術
 と音響操作で参加した。

●平成16年2月22日

新町あやめ座結成十周年記念特別大興行
 「花相撲新町準場所 恋の四十八手」
 作／高橋 純 舞台美術／嶋田 修
 新町「あやめ座」が平鹿町生涯学習町
 民の集いで上演した(8月の再演)

劇団 瀧

●平成15年6月21日

(西目町民センター「シーガル」)
 第6回定期公演
 「そして柏の木は残った・・・」
 作／小田切たかし
 演出／佐々木孝悦

●平成16年7月25日 (予定)

(西目町民センター「シーガル」)
 第7回定期公演
 「上り列車改札します」
 脚本／小田切たかし
 演出／佐々木孝悦

たかのす劇団

●平成14年10月12日 (鷹巣風土館)

「57光と炎の記憶」
 脚本・演出／三澤守一

●平成15年9月27日 (鷹巣風土館)

「風 ゆるやかに」
 脚本・演出／三澤守一

展覧会

●平成14年10月5日

演劇セミナー(県北ブロック主管)
 主催地である展覧会が受け入れ担当、
 モデル上演として劇団風の子(森から
 来た魚)を上演。

●平成15年11月15日、16日 3回公演
 (二ツ井町福祉会館 ホール)
 「親父と嫁さん」
 作／石塚克彦
 改訂・演出／工藤慶悦

編集後記

いやいや大変に遅れた発行に
 になりましたことをお詫びいたし
 ます。

本業がこの不況期で大変な折
 り、会報発行どころではないと
 いう不真面目な態度がこうして
 遅延した結果になったというこ
 とです。本業以外のことをヤボ
 用・雑務と言ひ換えれば雑務は
 演劇以外にも多く私の処理能力
 の無さが如実に感じているこの
 ごろです。とにかく各劇団に無
 理やり催促して作り上げまし
 た。予定どおり早々と原稿を提
 供して下さっている劇団にはお詫
 びのしようもありません。理事
 長のお怒りの目ん玉が飛び出ん
 うちにドアカデ作った今回の会
 報でした。

(事務局長 工藤慶悦)